

# 小紫 雅史 (こむらさきまさし)



昭和49年3月生まれ (51歳)  
兵庫県出身 / 妻・3男1女



「こむらさきまさし」



komuchan2001



生駒市

「生駒市役所  
Web市長室」

## ・奈良県生駒市長【3期目】

- ・新しい霞が関を創る若手の会 (プロジェクトK元副代表)
- ・環境省を変える若手の会代表
- ・立命館大学「霞塾」元客員講師
- ・2019年マニフェスト大賞優秀賞

1997年3月 一橋大学法学部 卒業

2003年6月 シラキウス大学マックスウェルスクール  
行政経営大学院修了 (行政経営学修士)

1997年4月 環境庁 (現 環境省) 入省

ハイブリッド自動車に対する税制のグリーン化、レジ袋の有料化  
ローソンやモスバーガーとの環境自主協定の締結 など

2007年3月 外交官として米国ワシントンDCの日本国大使館勤務

2011年8月 公募により生駒市副市長に就任

2015年4月 生駒市長に就任 (現在3期目)

- ・テレワークや兼業可能なプロフェッショナル人材の採用、副業支援
- ・「自治体3.0」「ワーク・ライフ・コミュニティ・セルフのブレンド」によるまちづくり
- ・誰でも歩いて行ける場所に小規模多機能コミュニティを整備する「まちのえき」事業
- ・「株式会社いこま市民パワー」の設立によるSDGs 未来都市、政府の脱炭素先進地域認定
- ・本と図書館を活用したまちづくり (2021年ビブリオバトル大賞、2020年図書館大賞優秀賞)
- ・まちなかバル、起業支援の「いこま経営塾」、生駒山のブランド化などの産業振興
- ・市民等からの寄付を活用した受動喫煙対策、地域ネコの保護推進
- ・不登校の概念をなくす多様な学びの場、個性を伸ばす教育 (2022年ICT教育アワード経済産業大臣賞)



◇人口 117,295人

◇大阪都心部まで電車で約20分

◇県外就業率 全国2位

◇定住希望率 88.9%

◇本当に魅力ある市区町村ランキング 奈良県1位

⇒ 近畿地方のど真ん中、典型的な「ベッドタウン」



# 「脱炭素」はだれも反対しない、しかし・・・

Q. 市で取り組む施策分野について

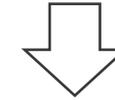
順位	施策
1	医療
2	生活安全
3	防災
4	道路・公共交通
5	消防
⋮	⋮

**24 低炭素・循環型社会**

「令和4年度生駒市市民実感度調査結果」より

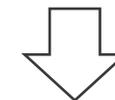
## 市民の優先度が低い

- ・理解はしても行動につながらない
- ・脱炭素の行動を起こすのは「コア」層だけ



エネルギー起源CO2排出量9.64億tのうち、  
家庭部門:1.58億t  
運輸部門(マイカー):5830万t

→ 市民活動に関わる排出が22.4%



市民の行動変容につなげる具体策が必要  
環境・脱炭素に理解ある人以外への浸透が不可欠  
(単なる理想論・普及啓発では×)

# だからこそ！脱炭素をまちづくりに組み込もう！

## 介護予防・健康、移動支援

コミュニティを形成し、買物・食事・娯楽を一緒に！

→ 歩いて行ける令和のコンビニ「まちのえき」

## 災害への不安

避難所に行けない・行かない人の増加

→ 既存住宅の脱炭素化・個別住宅への太陽光発電＋蓄電池・EV

## 人生100年時代・シニアの活躍

退職してからも充実して過ごす、地域・社会活動への参画のきっかけ

→ (一社)市民エネルギー生駒

⇒ 環境に関心がない層でも、脱炭素につながる行動を自然に進める社会・地域の仕組み  
(環境の顔をして環境に取り組んではいけない)

・市民の関心が高い分野、まちの課題・ニーズと「脱炭素」を組み合わせる

・地域を楽しみ、地産地消を進める中で、「結果的に」「知らないうちに」、脱炭素が進む

# 「全国初」の既存住宅地における脱炭素先行地域事例

- 全国の住宅ストック数は年々増加  
⇒ カーボンニュートラル達成には、既存住宅地を脱炭素化する必要
- 生駒市の住生活エリアのうち、まずは2自治会(1,345世帯)を対象に太陽光パネルと蓄電池の普及に取り組む(導入目標270世帯)

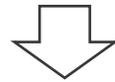
しかし…市民から多くの不安が寄せられ、なかなか理解が得られない



高齢で  
20年先が不安…

将来の廃棄を  
どうするの？

電気代は  
安くなるの？



## ○防災×脱炭素

- ・いつ起こるかわからない地震への備え。災害時に電気が使える有難さ

## ○地元事業者の活躍

- ・市が募集した登録事業者の協力を得て、無料相談会や個別営業を展開
- ・いこま市民パワーと連携して、お得な電力の切替や余剰電力の買電サービスを案内

⇒現在約60世帯が設備導入を検討中(対象地域の拡大に向け検討中)

# 歩いて行ける「まちの駅」のイメージ



## 地域コミュニティの場



市民  
余った食料、本  
食器、生ごみ



公園や自宅の緑化、栽培  
などに活用



農業者



堆肥

新鮮野菜  
米

### 環境・3R(コミステ)

- 資源回収・分別
- 生ごみを堆肥化
- もったいない食器市
- フリーマーケット
- 家で余った食料

### 健康・文化

- 百歳体操・軽スポーツ
- まちかど図書室
- 音楽、文化
- 出前講座
- 移動保健室

- 乗り合い自動車  
(災害時非常電源)

### コミュニケーション

- 地域食堂・Café
- 地域サロン・お茶会

フードドライブ

### 買物・食事・生活支援

- 農産物の朝市
- スーパーの  
移動販売
- キッチンカー
- ゴミ出し・草刈り支援



### 子育て・女性活躍

- こども・地域食堂→持ち帰り
- 託児・小規模保育
- コワーキング・テレワーク
- コミュニティでの創業
- 公園を活用した子育ての場
- みんなのプール

地産地消、移動支援、地域活性化を、地域の協創で実現！

間接的な

## <「まちのえき」による脱炭素効果>

- 一人ひとりが買い物や食事等に車で出かけるのではなく、歩いて行ける場所で生活機能や楽しみの場がある
- 地産地消の野菜を食べることによるCO2削減
- みんなが一緒に冷暖房「Cool&Warm Spot」 ← 人が集まる仕掛け
- 自治会館に太陽光発電 + 青パト&ライドシェア用のEV
- 本や子ども用品、食料のリユース(おすそ分け・シェア)